

セクハラ歴史と法整備

日本におけるセクハラ裁判の原点は、1986年に起きた西船橋駅ホーム転落死事件とされています。性的嫌がらせをした男性を女性が避けようとして体を突いたところ、その男性がホームに転落し、電車に巻き込まれて死亡した事件です。

現在「セクハラ」は、職場における性的な言動を指すことが多いのですが、場所や関係に関わらず「性的嫌がらせ」セクハラ」であり、当時被害者を支援した団体がこの言葉を使い、世に知られることとなりました。その後、職場での上司からのセクハラ被害を民事裁判で訴えるケースなども続き、1989年には流行語・新語大賞で新語部門金賞に選ばれました。

1996年に起きた米国三菱へのセクハラ訴訟は、高額な賠償金だけでなく人種や性差別などの問題を含んでいたことから、世界的なニュースにもなりました。

1997年にセクハラについて定めた男女雇用機会均等法が成立した際、セクハラの対象となるのは「女性」に限られ、事業主の配慮義務のみでした。その後、2006年改正時に措置義務に強化され、具体的な事業主の対処について指針に明記しました。また対象を男性から女性、女性から男性、男性から男性、女性から女性とすべての場合でセクハラを禁止しました。

セクハラは重大な人権侵害であるにも関わらず、政府の閣議決定でも明らかないように「セクハラ罪」という罪は存在しない

いと、犯罪として直接禁止や処罰を規定した法律は存在していません。

2018年6月にILO(国際労働機関)は「仕事の世界における暴力とハラスメント」において職場でのセクハラを含むハラスメントをなくすために、拘束力をもつ条約を制定すべきという委員会報告を採択しました。今年の総会で条約が採択されれば、日本でも国内法整備に向けた大きな前進につながると期待されています。

2018年12月に週刊誌が大学の实名入りで、女性の尊厳や名誉を著しく傷つける特集を組むという問題が起きました。この問題に対し、女子学生グループが抗議し、インターネットで一週間に4万人の署名を集め、編集部と問題点を確認するための対話を行うことができました。セクハラという人権侵害が続く中、声を上げ抗議に賛同することが重要であることを示しています。(佐野)

広がる#MeToo運動

世界では・・・

「#MeToo運動」とは、性暴力やセクハラ被害を告発する運動のことです。「#(ハッシュタグ)」は、ツイッターやインスタグラムなどのSNS上の検索機能のこと。セクハラ被害告発記事をこの「#MeToo」と共に投稿することで運動が広がっていきました。

始まりは2017年10月。米国で、ハリウッド映画プロデューサーによるセクハラ疑惑が報じられました。女優のアリッサ・ミラノさんは、同じようにセクハラ被害を受けた女性たちに向けて、「me too(私も)」と声を上げるようSNSで呼びかけました。これを契機に著名人のセクハラを告発するうねりが生まれ、その動きは世界へと広がっていきました。

スウェーデンでは、俳優、医師、政治家や介護職など様々な職種ごとにハッシュタグが誕生しました。多くの人たちが、それぞれの職場で声を上げることで運動が広がり、2018年7月には性的同意・レイプに関する新たな法律が施行されました。

韓国では、女性検事がテレビに実名で出演し、検察内のセクハラを告発しました。その後、政治家や詩人などのセクハラが告発されるようになり、さらに高校、大学ごとに#MeToo運動が起こるなど若い世代にも広がっていきました。

日本では・・・

日本の#MeToo運動で象徴的存

本の紹介

セクハラ誕生

～日本上陸から現在まで～

原山擁平 著/東京書籍

西船橋事件、そして同じ時代に起きたセクハラ事件・裁判について、時代背景や弁護士、支援者、ジャーナリストがそれぞれの思いをもってセクハラに向き合った姿が書かれています。



しゃべり尽くそう！私たちの新フェミニズム

望月衣瑠子 他 著/梨の木舎

清瀬市にて講演された望月さん。新聞記者としての力強さを見せて頂きました。この本では、伊藤詩織さんを始め、四人の女性との白熱したトークが見ものです。



在といえるのが伊藤詩織さんです。伊藤さんは、元TBSワシントン支局長にレイプされたと、実名を公表し告発しました。世界的な動きを背景に、伊藤さんの名前は海外でも広く知られることとなりました。

また、有名ブロガーで作家のはあちゅうさんは、以前勤めていた広告代理店の先輩社員からの被害、モデルのKaori iさん、水原希子さんも撮影現場でのセクハラ被害を告発しました。以降も、相次いで政治家や官僚などのセクハラが告発されています。

これまでセクハラ被害者の多くは「大ごとにしたくない」「知られたくない」などの理由から、誰にも相談できずに孤立してしまいました。そんな被害者たちに、「一人ではない」と勇気を与え、声を上げるきっかけを作ったことは、#MeToo運動の大きな成果の一つだと言えます。(酒井)

